

(5) 東海



東海地域では、景気は回復の動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

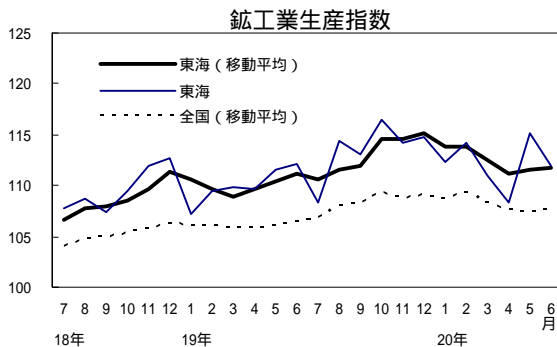
前回調査からの主要変更点

| | 前回（平成20年5月） | 今回（平成20年8月） | |
|-------|--------------------------|-------------|--|
| 景況判断 | 回復 | 回復の動きに足踏み | |
| 鉱工業生産 | 堅調に推移 | おおむね横ばい | |
| 個人消費 | 一部に回復の動きが残っているもののおおむね横ばい | おおむね横ばい | |
| 雇用 | 着実に改善 | 改善の動きに足踏み | |

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

輸送機械は、海外向けの堅調な乗用車がおおむね横ばいで推移しているものの、自動車部品が高水準ながら国内向けで伸び悩み、減少している。一般機械は、金属工作機械が欧州、アジア向けは堅調なものの、国内向けが伸び悩み、おおむね横ばいとなっている。電子部品・デバイスは、半導体素子・集積回路の携帯電話向け記憶素子（メモリ等）が高水準で、おおむね横ばいとなっている。プラスチック製品は、プラスチック製フィルムや工業用製品を中心に減少している。化学は、医薬品が増産したことから、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

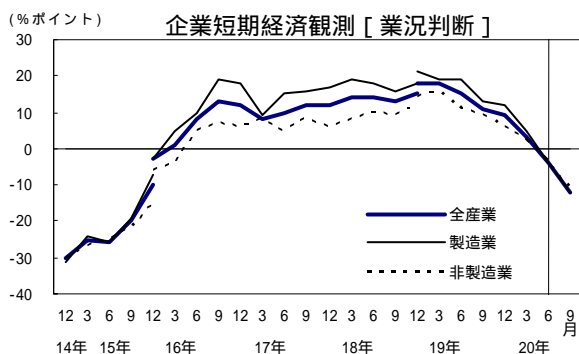
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

| | 付加価値 ウェイト | 生産 | | 出荷 | 在庫 |
|-----------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 1~3 月期 | 4~6 月期 | 4~6 月期 | 4~6 月期 |
| 輸送機械 | 37.5 | 3.4 | 1.1 | 1.4 | 7.0 |
| 一般機械 | 12.7 | 1.4 | 0.8 | 2.9 | 3.6 |
| 電子部品・デバイス | 6.8 | 3.5 | 0.2 | 2.0 | 32.6 |
| プラスチック製品 | 5.4 | 0.4 | 2.5 | 1.3 | 4.3 |
| 化学 | 5.0 | 5.2 | 3.6 | 0.5 | 3.6 |
| 鉱工業 | 100.0 | 2.3 | 0.6 | 0.8 | 0.9 |

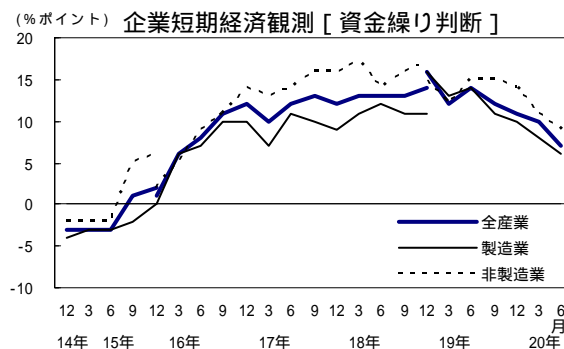
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部。

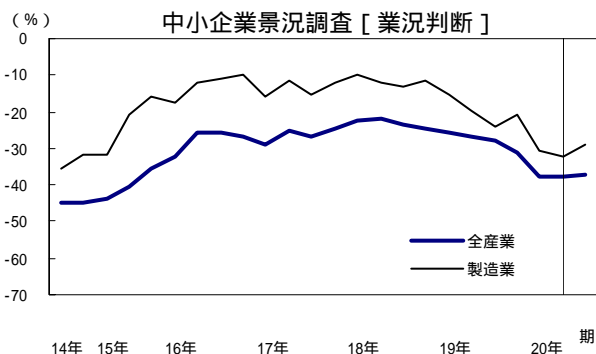
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年9月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

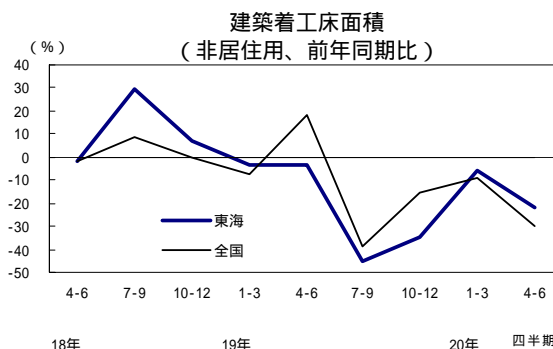
「取引先では、アメリカでの大型車の販売不振などにより、9月頃まで生産調整を実施する。その影響で、梱包資材の販売量が減少している(紙加工品[段ボール]製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

| | (前年度比、%) | |
|------|---------------|-------------|
| | 19年度実績 | 20年度概 |
| 全産業 | 6.4 [8.2] | 3.3 [0.1] |
| 製造業 | 0.4 [1.6] | 2.0 [1.2] |
| 非製造業 | 18.2 [21.2] | 5.5 [1.7] |

(備考)[]は前回(3月)調査結果



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

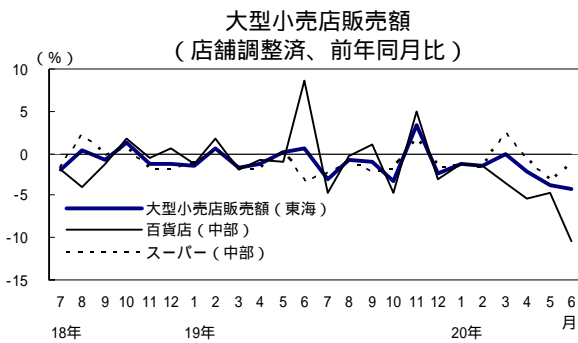
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、前年の大型商業施設開業のプラス効果の反動に加え、株安やユーロ高の影響から高級品の売上が悪く、前年を下回った。5月は、相次ぐ食品等の値上げによる生活防衛意識の高まり、天候不順からファッション性の高い衣料品が不調で、前年を下回った。

6月は、前年6月末だったクリアランスセール初日が今年は7月になったことに加え、中元商戦のピークと見込んだ6月最後の週末の大雨も客足に影響し、前年を下回った。なお、中部百貨店協会によると、名古屋市内の7月の売上高は、前年同月比で5.3%減となっている。スーパーは、飲食料品は堅調に推移したものの、衣料品が不調で、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「観光客数は前年並みであるが、ガソリン価格の高騰の影響で、公共交通機関利用者が若干増加している一方、自動車利用者は10%ほど減少している。その影響もあり、客単価は5%ほど低下している(一般小売店[土産])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

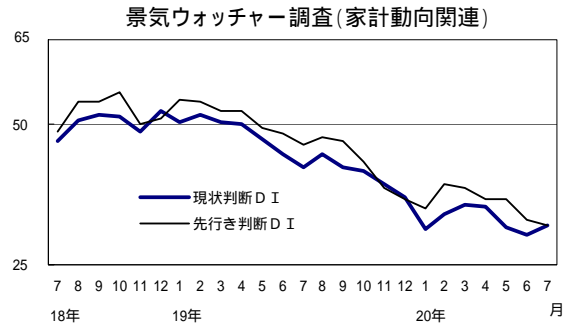
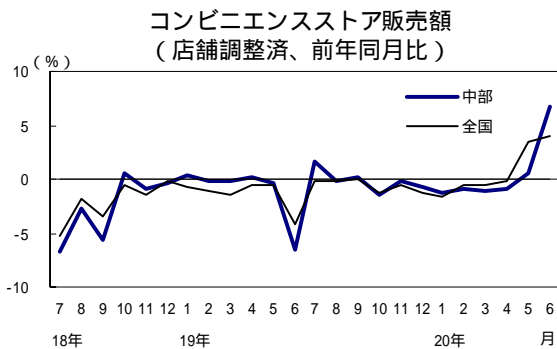


| | 19年7-9月 | 10-12月 | 20年1-3月 | 4-6月 |
|----------|---------|--------|---------|------|
| 大型小売店 | 1.6 | 0.8 | 0.9 | 3.4 |
| 百貨店 | 1.8 | 1.2 | 2.1 | 6.9 |
| スーパー | 1.9 | 0.7 | 0.3 | 1.8 |
| コンビニ | 0.6 | 0.8 | 1.0 | 2.2 |
| 景気ウォッチャー | 43.2 | 39.3 | 33.8 | 32.4 |

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。

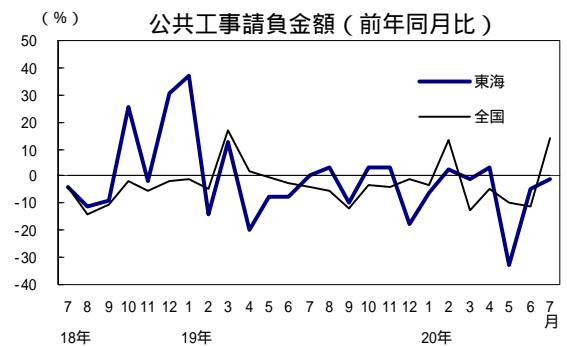
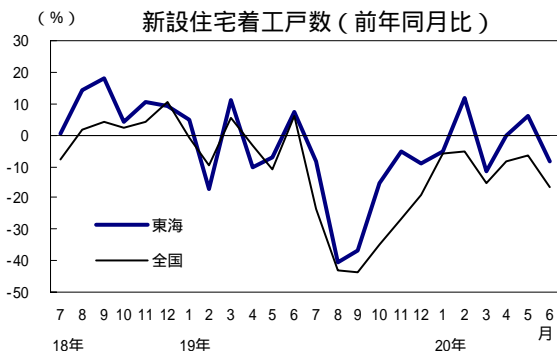
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少幅は縮小している。

持家、貸家は前年を下回ったものの、分譲が上回ったことから、減少幅は縮小している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

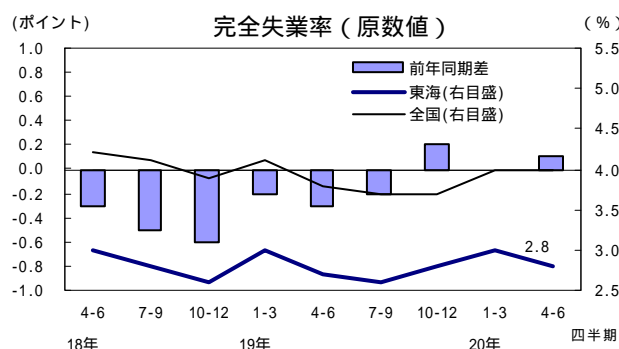
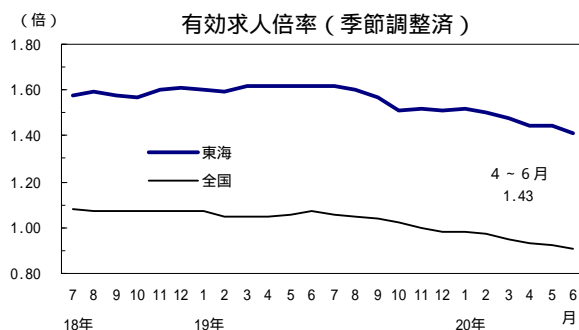


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]

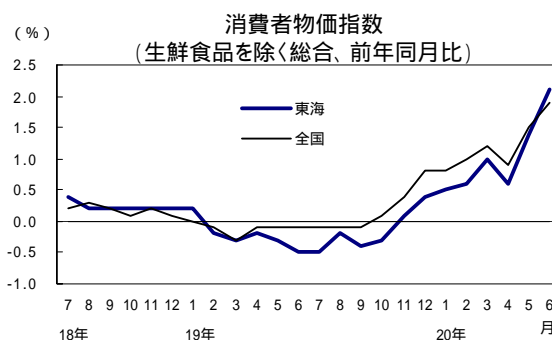
「新規求人数は、前年同月比で24.8%減少している。製造業全体では32.7%の減少であるが、特に輸送用機器製造業では70.7%と大幅に減少している(職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

| | (件、億円、%) | | | | |
|-------|----------|--------|---------|-------|-------|
| | 19年7-9月 | 10-12月 | 20年1-3月 | 4-6月 | 20年7月 |
| 倒産件数 | 349 | 332 | 343 | 332 | 120 |
| (前年比) | 21.2 | 2.8 | 7.5 | 8.1 | 0.8 |
| 負債総額 | 1,993 | 750 | 1,012 | 1,359 | 217 |
| (前年比) | 94.7 | 20.1 | 14.2 | 80.0 | 35.4 |



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・東海北陸自動車道の全面開通効果によって、交流人口が増加している。ガソリン価格の高騰にもかかわらず、良くなっている(テーマパーク)

<先行き>

・セール品しか売れず、正価品の売行きは非常に悪いいため、来年1月のクリアランスセールまでは非常に厳しい(百貨店)。

